

ご近所の お医者さん

459

今井内科小児科医院長 今井真さん 一大阪狭山市

最期の看取り

内閣府の「2017年版高齢社会白書」によると、日本の高齢化率は27・3%で4人に1人が65歳以上です。今後高齢化率は上昇を続け、65年には38・4%、2・6人に1人が高齢者になると予測しています。元気な高齢者を迎える

死への「準備教育」大事に

てね「息子さんが帰省したから一度外

ことも大切ですが、一方で「最期」についても十分に考えておく必要があります。私は昔ながらの町医者の跡取りで、祖父の代から続く診察を参考にしてい



ば、たとえ家族が反対しても、本人の希望を最優先にすべきだとの考えです。それが長年、自分についてくれた患者さんへの奉公だと言うのです。本人の望みが最優先であることに異論はありませんが、私は「家族が望まなければ、時としてかかりつけ医が引くこともあり得る」という持論で診察しています。もちろん、本人と家族の意見が近いレベルで一致していれば、言うことはないのですが。

死は、誰もが好んで話題にするものではありませんが「元気なうちから「準備教育」をかりつけ医が行うことが大切ではないか」と思います。患者さんの意思をくむため、「先生に看取られたい」と言ってもらえる信頼関係作りが重要です。私は普段の診察で「ご家族にちゃんと自分がどのように過ごしたいか伝えてね」「息子さんが帰省したから一度外

来に連れてきてよ」「子どもに対して「おじいちゃん元気？」などと、家族とのつながりを求める言葉をかけます。家族への声かけは、看取りへの種まきであり、死の準備教育だと考えるからです。死生観は、個人はもとより、社会全体でも移り変わります。かかりつけ医は患者さんに寄り添い、「最期の思い」を共有することを大切にしています。そこに教科書はありません。